

avancer 『アヴァンセ』

令和5年度・第4号

令和5年8月吉日 所長 海老澤政昭

梅雨が明け、猛暑日が続いています。体調管理がとても大事な時ですね。

さて、先日、放課後等デイサービスに通所する子どもたちと神戸地区児童クラブの子どもたちとの交流が実現しました。これに先立ち、神戸地区児童クラブの子どもたち、指導員を含む関係者、保護者の皆様には、交流を進めるにあたっての話し合い等、ありがとうございました。ようやく、第一歩を歩むことができました。この一歩は、私たちにとって、インクルーシブな地域社会への創造の第一歩です。

この交流で気付いたことを伝えます。まず、児童クラブの子どもたちは“障害の有無”について意識せず、“大きいお兄さんやお姉さん”として関わってくれました。賑やかな小さな子どもたちの中でも、不安定にならず過ごすことができとても安心しました。ここで、学校や放課後デイでのかかわりと今回との違いが何なのかを考えてみました。

普段、友だちとのかかわりにおいては多少なりとも“意地悪”な部分が見え隠れしています。わざとではないのですが、微妙な部分であり、本人にはかわからない部分でもあります。それらが少しずつ蓄積することによって、感情や行動の調整が難しくなり、結果、“どうにもならない状況”としてのパニックにつながってしまうと考えられます。私たち大人も気を付けなければならないことです。心のどこかに見え隠れする他者への偏見やちょっとした意地悪さは、他者に少しずつダメージを与えてしまいます。そして、与えている側は気付かないことが多いです。

児童クラブの子どもたちは、真っ白な気持ちでした。私たち大人は、障害のある子どもたち、仲間たちから学ぶべきことがたくさんあります。そして、子どもたちからも同じように学ぶべきことが多いです。本来、私たちも持っていたことが、たくさんの経験を積む中で、いつしか遠くばかりを見続け、足元にある景色に気付かなくなってしまうのかもしれませんが。

インクルーシブ社会という、とても難しく感じますが、本来、どこにでもある、あたりまえの風景なのかもしれませんね。他者の目線で考えることを常に大事にしたいですね。

地域連携事業を開始しました！！



いよいよ地域連携事業が始まりました！第1回目は、神戸児童クラブのみなさんと、手話で「虹」を歌おうでした。2回目は、ごうでいんぐ岩世ヶ原で児童クラブの生徒さんたちとおやつ作りをしました。そして3回目は、神戸まちづくりセンターで行われた「ごうどもちセン de サマワーク」に生活介護の仲間たちと放デイのみんなと、絵を描いたり、ロウソク作りをしたり楽しみました。どれもとても楽しい時間を過ごすことができました。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。

【編集後記】

7月は、とても内容の濃い時間を過ごすことができました。新たなゴウディングコミュニティの活動を、これからも仲間たちと共に作り上げていきたいと思えます。